

## 路面のコミック景観

— 立川市・稲城市のデザインマンホールカバーについて —

### A Research for Comic Landscape on Road: About Designed Manhole Covers in Tachikawa City and Inagi City

早野 慎吾 董 然

HAYANO Shingo, DONG Ran

#### 1. はじめに

路面の言語景観については早野(2009)で報告したが、そこでは路面表記にも興味深い現象が多く観察できた。路面表記には、道路交通の表示だけでなく、喫煙禁止区域の表示(図1)や道路名の表示(図2)にも使われる。マンホールカバー(図3)も「おすい(汚水)」[うすい(雨水)]などの用途表示や自治体名、またシンボルマークなどを表示しており、路面表記の一要素ではあったが、目立つ存在ではなく研究対象にはされなかった。しかし、近年、路面表記としての価値が認識され、ご当地マンホールやデザインマンホール(以後デザインカバー)\*<sup>1</sup>と呼ばれる人目を引くデザイン性の高いマンホールカバーが多く作られて、自治体の宣伝などに活用されるようになってきた。



図1 立川市



図2 宮崎市

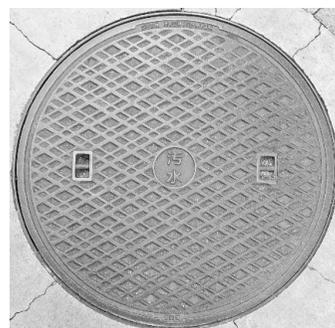


図3 立川市

マンホールカバーは1990年頃からしばしばマスメディアで話題にされるようになった\*<sup>2</sup>。マンホールラーと呼ばれるマンホールマニアたちは、全国各地のマンホールカバーを撮影してインターネット上に情報を公開し、またマンホールナイト\*<sup>3</sup>のようなイベントを開催して情報交換している。このようなマンホールラーたちの活動がマンホールカバーに注目させるきっかけとなった。さらに、デザインカバーの出現で自治体も広報等に活用するようになってきた。特にマンガ・アニメ・ご当地キャラクターを使ったデザインカバーは観光資源としての価値も認識されている。本稿では、東京都立川市や稲城市を例に、デザインカバーの意義について分析する。

## 2. コミック景観としてのマンホールカバー

マンホールカバーの価値について、白浜(2019)では骨董的価値と芸術的価値に分けて説明している。日本で観察できるマンホールは、下水道が発達した20世紀前半以降のもので歴史が浅い<sup>\*4</sup>。しかし、白浜(2019)で紹介された大日本帝国海軍を示す錨の紋章が入った防火栓のカバー(広島県呉市)の例などは年代性を感じさせて興味深い(図4)。白浜(2019)は芸術的価値を三重県伊勢市と福井県勝山市デザインカバーを例に説明している。筆者はこの二点を年代性、デザイン性として論じる。



図4 呉市

マンホールカバーの凹凸は、主に滑り止めが目的ではあるが、その凹凸を幾何学模様にしたたり紋章を入れたりして、一般的なマンホールカバーでもデザイン性が高いものが多い。一般のマンホールカバーがあえて目立たないように作られているのに対して、デザインカバーは目立つように作られており、その特徴は「個別性」と「注目性」にあると考えられる。



図5 八王子市



図6 横浜市



図7 立川市

個別性 (originality) とは、一般的なマンホールカバーとは違うデザインであることを強調する要素である。たとえば、マンホールカバーの文様には東京市型、名古屋市型<sup>\*5</sup>のような型の違いもあるが(林1984)、マンホールカバーに詳しくない限り、その違いに気付く地域住民はいない。しかし、デザインカバーに関しては、マニアでなくても一般的なマンホールカバーと違うことにすぐ気付く。デザインカバーは、主に各自治体(下水道局など)が設置するため、個別性の表現には、その土地ゆかりのものがデザインされることが多く、岡山市の桃太郎、静岡市の富士山、瀬戸内市のレモン、広島市の広島カープなどが有名である。八王子市の八王子車人形のような、地域伝統芸能をデザインしたものもある(図5)。ポケットモンスター(ポケモン)を使った全国的な企画が展開している例もあるが、それでも図6のように設置した各自治体(YOKOHAMA)の名称が刻印されている。

注目性 (attention) とは、通行者に存在を気付かせる要素である。カラーに着色する例が多いのも注目性を高めるためと考えられる。図7は立川市のイメージキャラクター「くるりん」を使用したデザインカバーであるが、カラーでないためデザインカバーであることに気が付かない。設置場所が車道(センターラインの上)のため、安全面からカラーにしなかったと思われる(図8)。これは「隠れデザインカバー」といえるが、市の広報としてはほとんど役立っていない。

マンホールカバーは路面設置が基本のため、安全性を考えた場合、複雑な情報伝達には

向かない。「汚水」「雨水」「消火栓」等の用途表示と設置した自治体のシンボルマーク表示などが基本である。それはデザインカバーにおいても同じであるが、個性と注目性が強調されている点において他の一般的なマンホールカバーと異なる。

壁面の言語景観では、目立たせて多くの情報(商店であれば新製品の情報や価格等)を伝達することも多いが、デザインカバーは自治体アピールが目的で基本的に多くの情報伝達を行わない。文字表記よりもイメージ性を重視しているため言語景観の要素は低くコミック景観(早野2018)の要素が主となっている。マンガ家の水木しげるの自宅があった東京都調布市のデザインカバー<sup>\*6</sup>は『ゲゲゲの鬼太郎』を使用して「妖怪も人間もマナーが大切じゃよ」「はい父さん」とのメッセージが記載されており、壁面の標語ポスターと同じ情報伝達をしている(図9)。これは、レアなケースと言える。

### 3. 立川市のデザインマンカバー

東京都立川市では、「くるりん」を使用したデザインカバーを立川駅周辺に設置して市の宣伝に活用している。場所はJR立川駅北口立川タクロス前・子ども未来センター(2018年5月設置)、立川市役所・川越道緑地古民家園前(2019年3月)、信濃大町アルプスプラザ・西武立川駅北口(2020年1月)の6カ所に3種類設置されている。図10は子ども未来センターに設置されたデザインカバーであるが、路面には表記物が少ないため、カラフルなデザインカバーは非常に目を引く。図11はアルプスプラザ前に設置されたデザインカバーであるが、壁面のコミック景観と同等程度に目立っている。市のホームページでは設置場所も掲示しており(図12)、市が広報として力を入れていることがわかる。



図8 センターライン上のデザインカバー



図9 調布市



図10 立川市



図11 立川市

## 設置箇所

JR立川駅北口、子ども未来センター、立川市役所、川越道緑地古民家園、信濃大町アルプスプラザ、西武立川駅北口の6カ所に設置してあります。



図12 立川市ホームページ (くらし・環境) より

### 4. 稲城市のデザインマンホール

稲城市では、同市出身でアニメ作品のメカニックデザイナー大河原邦男の作品を活用した「まちおこし」を行っている<sup>\*7</sup>。まちおこしとしては、鳥取県港境市が同市ゆかりの水木しげる(大阪市出身・港境市育ち)のマンガ作品を活用した「水木しげるロード」が有名である。開始時の平成5年「水木しげるロード」を訪れた客はわずか2万人だったのが、平成15年(水木しげる記念館開館の年)には85万人を超えた。その他、新潟県新潟市の「マンガ・アニメ活用まちづくり構想」、宮城県石巻市の「石巻マンガランド構想」などがあり、コミック作品を活用したイベントやまちおこしが全国的に行われている(早野2018)。

大河原邦男はタツノコプロやサンライズなどのアニメ制作会社でメカニックデザインを担当して多くの作品を世に出した。今回はその中でも『機動戦士ガンダム』(1979)(通称ファーストガンダム)のガンダム(図13)、『疾風! アイアンリーガー』(1993)のマグナムエース(図14)、『ヤッターマン』(1977)のヤッターワン(図15)、『装甲騎兵ボトムズ』(1983)のスコープドッグ(図16)、そして稲城市のイメージキャラクターである稲城なしのすけ(図17)の5種類のデザインカバーを設置した。図18は図13の周辺を撮影したもののだが、ガンダムのデザインカバーが非常に目立っていることがわかる。稲城市のホームページには次の記載がある。

観光資源としてこれらのデザインマンホール蓋を活用するとともに、これまで同プロジェクトで製作したモニュメント等と組み合わせることで市内の回遊性を向上させ、観光客の誘致促進及び地域活性化を図ります。

観光資源を目的とすることが明記されており、マンホールカバーが観光資源になり得ることを期待している。またデザインカバーの近くにはモニュメントがあり、モニュメントと組み合わせることで、より効果を得ようとしている。現在(2020年3月5日)、インターネットで「稲城市・マンホール」と検索すると、上記のデザインカバーだけでなく、稲城市の位置を示した画像などもヒットする。以前、東国原英夫が宮崎県知事時代、宮崎県の位置を示した地図をよく目にしたが、その現象に近い。



図13 稲城市



図14 稲城市



図15 稲城市



図16 稲城市



図17 稲城市



図18 稲城市

デザインマンホールは、それを撮影した話者がその画像を SNS などに投稿することで、宣伝効果が見込める。稲城市は上記デザインカバーのフォトラリーイベントを開催した(2020年1月15日～3月13日)。従来のマンホールだけでなく、機動戦士ガンダムファンや装甲騎兵ボトムズファンもイベントに参加するため、より多くの宣伝効果が望める。稲城市はパンフレットに設置場所の地図を掲載して、観光戦略を展開している(図19)。



図19 『GAIDE BOOK for デザインマンホールフォトラリー稲城市』より

### 5. マンホールカード

デザインカバーの設置に合わせてマンホールカードが作成されることも多い。マンホールカードとは、下水道広報プラットフォーム(GKP)が発行する、デザインカバーの写真が掲載されたトレーディングカードである。2016年4月にプロモーションとして東京都と横浜市のカードを作成して関係者に配布したのが最初で、2019年12月14日の時点で502自治体605種類のカードが発行されている(累計約540万枚)。マンホールカード制作会社ユニオンクリエイティブの担当者にインタビューしたところ、2015年の時点でマンホールカバーのファン(マンホラー)はいたが、カードを制作したことで、ファン層が大幅に拡大したとのことである。

下水道展イベントが毎年開催されているが、そこにはマンホールカード配布ブースがある。下水道展主催「日本下水道協会」の担当者にインタビューしたところ、マンホールカード配布ブースは人気があり、待機列ができていたと回答していた。



図20 マンホールカード

## 6. デザインカバーラリー

JR や私鉄では、近年マンガやアニメ関連のスタンプラリーが開催されて話題になっている。これなどはコミック文化が企業などで活用されている例である。稲城市のデザインカバーラリーは既に紹介したが、東京都ではより規模の大きな「TOKYO デザインマンホールモバイルスタンプラリー」を開催した(2020年3月8日～5月11日まで)<sup>\*8</sup>。これは、東京都内各所でマンガやアニメ、ご当地キャラクターなどを活用したデザインカバー(都内42箇所)を探すというイベントであるが、アニメ関連企業が集積している東京都が市区町村と連携してデザインカバーの設置に取り組んだ企画である。スタンプラリーの対象は以下の通りで、各自自治体がホームページで告知している。

### 多摩エリア

くるりん(立川市) / ゆめうめちゃん(青梅市) / 桜水くん(小金井市) / 東京ドロンパとヒルガタワムちゃん・東京ドロンパとぶるべー・東京ドロンパ(小平市) / うまべえ(東大和市) / 湧水の妖精るめちゃん(東久留米市) / あらいぐまラスカル・ハローキティ(多摩市) / ガンダム・ヤッターワン・マグナムエース・稲城なしのすけ(稲城市) / 森っこサンちゃん(あきる野市)

### 23区エリア

御茶の水博士・アトム・ウラン(千代田区) / シナモロール・品川紋次郎・シナカモン・やたたま(品川区) / ウルトラマン・ウルトラセブン・カネゴン・アントラー・バルタン星人(世田谷区) / 桐山零・川本あかり・川本ひなた・川本モモ・二階堂晴信・王さまニャー(渋谷区) / 東京都高円寺阿波おどり×なみすけ、ナミー・阿佐ヶ谷ジャズストリート×なみすけ、ナミー、なみきおじさん・荻外荘×なみすけ、ナミー(杉並区) / 池袋PRアニメ(豊島区) / 清野とおる・のらくろ(北区) / ビュー坊(足立区) / モンチッチ(葛飾区)

宮城県仙台市では期間限定のデザインカバー設置企画を行った。例えば、仙台デザインマンホールプロジェクト第3弾として、2017年8月12日～9月10日に開催された「荒木飛呂彦原画展 ジョジョ展 inS 市杜王町2017」を盛り上げる企画のひとつとして、『ジョジョの奇妙な冒険』のデザインカバーを2017年8月4日～9月10日までの期間限定で設置した(図21)。さらに第4弾としてアニメ『Wake Up, Girls!』のデザインカバーを2017年12月13日～2018年2月12日の期間限定で設置した。期間限定のマンホールカバー設置というのは、従来のマンホールカバーの設置目的とは明らかに異なる。本来の目的(路面の蓋としての機能)が「従」でイベントのアイテムとしての目的が「主」となっており、壁面コミック景観と同様の機能を果たしている。

デザインカバーの登場は、路上に注目させるきっかけをつくったといえる。交通上の安全面から複雑な情報伝達はできないが、設置された路面は大きな変化が起きており、マンホールカバーがコミック景観の要素として大きな存在になってきた。



図21 仙台市

## 7. おわりに

熱心なマンホールラーらの活動で、マンホールカバーの存在が話題にされるようになり、マンガやアニメを活用したデザインカバーの登場でファンが増加し、一般市民にも知られるようになった。

デザインカバーは、マンホールの蓋としての本来の機能に路面言語景観およびコミック景観としての機能を併せ持ち、さらにモニュメントやオブジェとしての機能も果たしている。JR 稲城長沼(南部線)の駅近にある稲城市アンテナショップ「ペアテラス」では、オブジェとして展示している(図22)。

マンガは文科省『教育白書』(2000年)に日本の誇る文化のひとつとして記載されたが、その文化は、様々な分野・事象に活用されている。コミック作品がマンホールカバーに活用されたことで、マンホールカバーに新たな価値が生じ、路面景観の様相を大きく変えた。



図22 稲城市アンテナショップ「ペアテラス」店内

### 【注】

1. マンホール(manhole)とは、地下の水道管・下水道・配線などを点検・修理・掃除するために、人が出入りすることができるように作った穴(『精選版・日本国語大辞典』)であるが、一般にはその蓋(カバー)を意味することが多い。編み目や蜘蛛の巣状の一般的なマンホールカバー(図3)に対して、その土地ゆかりのものやコミックキャラクターのデザインを施したマンホールカバーをデザインマンホール、カラーマンホール鉄蓋等と呼んでいるが、本稿ではデザインカバーと表現する(図5・図6・図7等を参照)。
2. 白浜(2019:p.32)では、マンホールカバーを扱ったテレビ番組を整理しているが、やはり、バラエティ番組が多い。
3. マンホールカバーに関するマニアックな報告会。その他にマンホールフェスティバル、マンホールサミットなどがある。研究者たちの学会とは違い学術性はないが、マニアックな報告が楽しめる。
4. 骨董品に関しては、希少性や年代性が問題にされる。年代性に関しては1934年米国

の通商関税法(1934)の「製造されてから百年」という基準が使用されることが多い。

5. 次の図23・図24が東京市型と名古屋市型である(画像は白浜(2019)より)。マンホールカバーは、字体や書体の違いもあり、バリエーションに富んではいるが、気付かれにくい。



図23 東京市型

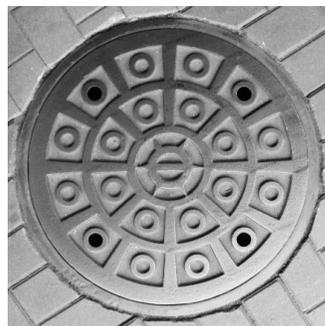


図24 名古屋市型

6. 図5と図8はマンホールカードの画像である。基本的に、本稿で用いるマンホールカバーは筆者ら研究チームが撮影しているが、マンホールカバーの状態(汚れている等)や画像の状態(夜間の撮影等)の理由で図5と図9はマンホールカードの画像を用いた。

7. 稲城市は「大河原邦男プロジェクト」を2015年度から行っており、本稿で扱ったデザインカバーだけでなく、大河原デザインのモニュメントやデザインプレートの設置なども行っている。特に稲城市アンテナショップ「ペアテラス」前にある3.6メートルのガンダム(RX-78)とシャア専用ザクの像は人目をひく。都内のガンダムモニュメントとしては西武新宿線上井草駅のブロンズ像、お台場「ダイバーシティ東京プラザ」前の実物大像なども有名である。



図25 ガンダム像とシャア専用ザク像

8. 新型コロナ禍のためキックオフイベントの中止などがあり、話題性は低くなった。

【参考文献】

- カラーマンホール研究会編(2015)『厳選! デザインマンホール大図鑑』グラフィック社
- 白浜公平(2019)「日本のマンホールカバーの社会文化的要素について」『日本語文化の研究』2 pp.27-35
- 林丈二(1984)『マンホールのふた 日本篇』サイエンティスト社
- 早野慎吾(2008)「文字に書かれた宮崎方言」『地域文化研究』2 pp.31-40
- 早野慎吾編著(2009)『宮崎市街地の言語景観』宮崎大学国語学研究室
- 早野慎吾(2018)「オタク文化の表現論(1)ーコミック景観についてー」『日本語文化の研究』1 pp.10-21
- 早野慎吾 宮田好恵 松井洋子(2018)「マンガを活用した国語教育(1)ー表現力養成の教材としてー」『言論の研究と教育』1 pp.7-18
- 早野慎吾 宮田好恵 松井洋子(2019)「マンガを活用した国語教育(2)ー授業実践からー」『都留文科大学研究紀要』88 pp.27-38
- 早野慎吾(2019)「マンガを活用した国語教育(3)ー小学校の古文教育ー」『日本語文化の研究』2 pp.1-10
- 早野慎吾(2019)「マンガを活用した言語教育ーコミック文化の活用法ー」『日本マンガ学会第19回大会発表要旨集』(於熊本大学) pp.22-23

付記：本稿は2020年日本マンガ学会オンライン研究発表会において「コミックを活用したデザインマンホールの研究ー路上を演出するコミック景観ー」として発表したものに加筆、修正したものである。本稿を執筆するにあたり稲城市経済観光課の入部晋治氏の協力を得た。記して感謝申し上げます。また、各地のマンホールカバーの撮影には、筆者の他、研究メンバーの宮田好恵、鈴木恵美、新井秀平が参加した。図6のピカチュウカバー(ポケモン)、図21の杉本鈴美&アーノルド(ジョジョの奇妙な冒険)は新井秀平が現地(横浜市・仙台市)に行つて撮影したものである。

Received : March, 9, 2020

Accepted : June, 10, 2020